

2025 年 11 月 22 日（土）  
深田久弥氏を訪ねて茅ヶ岳（1704m）登山

多くの山を踏破して「日本百名山」の著書を残した深田久弥氏の終焉の山「茅ヶ岳」に登ってきました。  
山梨百名山でもあり、“ニセヤツ”の異名もあります。深田記念公園の記念碑や終焉の地を訪ねる登山でした。  
紅葉の盛りは過ぎていましたが、山頂での360度の遠望を楽しむことが出来ました。



今回の登山は、中島さんと吉松の2人で行ってきました。

レポート；吉松

当日は、風もない秋晴れとなりました。

8時37分、中央線菟崎駅に到着。駅前のトヨタレンタカーで車を借りて深田記念公園に向けてひとつ走り。  
20分ほどで公園の駐車場に到着しました。



駐車している車は少なく、登山者も多くは無さそうだ。



9時15分

登山口にて





暫く樹高の高い樹木のトンネル道を歩いた。なだらかな登りであった。



傾斜はなだらかでも、40分も歩くと身体がポカポカと熱くなってきた。

10時  
着ている服の調整の為に小休止

落ち葉に隠れたゴロゴロ石が曲者で、用心もせずにつかり足を載せると足を挫く危険がある。



10時  
急登に差し掛かる場所きた。



厚く積もった枯葉の為に足元の登山道が良く見えない。

張ってあるロープを頼りに登っていく。





益々増えてきた岩の急登を登る。

「山と高原地図」によれば、この辺りに「女岩」と「水場」があるはずなのだが、ついに見つけられなかった。



深く層をなした落ち葉は難物だ。  
枯葉の下の岩の状態が見えない。  
場所によっては、雪山のように足が潜り込む。

細心の注意を払いながら一步一步登っていくことにした。

30分程も、岩場の急登と格闘しただろうか。



10時半過ぎに岩場の急登が終わり、落ち葉が少ない登山道に出た。すっかり汗をかいてしまった。  
暫しの給水タイムを取ることにした。

一息ついてから、清々しい秋の風にあたりながら頂上を目指して歩くと、深田久弥終焉の場所に差し掛かった。



### 深田久弥終焉の碑

碑銘に、1971年（昭和46年）3月21日没とある。登山途中に脳卒中で亡くなる。  
享年68



【ついでながら1】

中島さんは、1971年生まれ。深田久弥氏が亡くなって間もなく生まれている。

「もしかしたら、私は生まれ変わりなのかしら？」・・・とは中島さんの独り言

11時30分、茅が岳山頂（1704m）に到着。見事な富士山が望めた。



今日は朝が早かった所為か、やけにお腹が減った。シャリばて状態だ。まずは昼食をとることにした。食事の果物に、中島さん宅の庭でとれたというミカンを頂いた。乾いた喉に殊の外美味かった。

＝中島さんは、カップラーメン＝

＝吉松はいつものランチパック＝

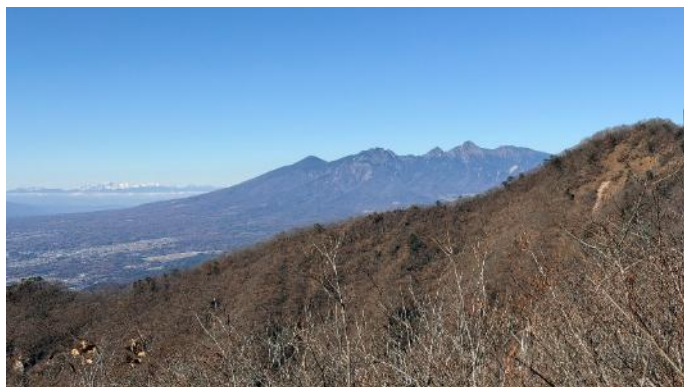




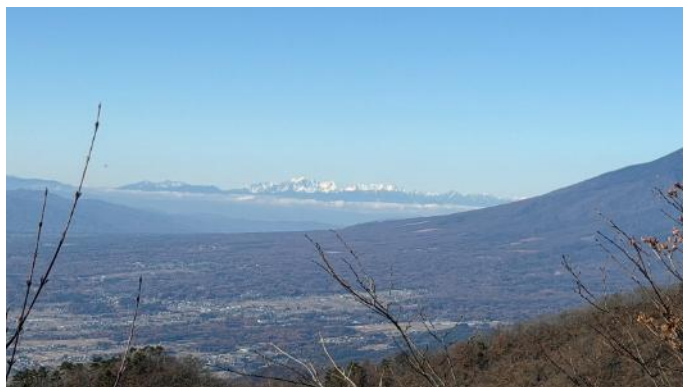
お腹が満たされたところで、記念写真（後方の山は、瑞牆山、金峰山）



風もなく秋晴れの山頂では、暖かい日差しを受けながら10数人の登山者が360度の景色を楽しんでいた。我々も山頂でのひと時を楽しむことにした。



八ヶ岳



遠くに北アルプス



山頂でのんびりとした後、12時30分に下山を開始することにした。

同じ登山道をピストンで下る予定であったが、登ってきた道は岩場にあまりにも多くの枯葉が積もっていて、一寸危険を感じていた。

茅ヶ岳に何度も登っているという地元の登山者に聞くと、「下るなら絶対にこちらの道を！」と勧めてくれた。





勧めてくれた道は、「山と高原地図」上では登りに利用した道とほぼ並行して示されている。

岩はほとんどなく、落ち葉も風で吹き飛ばされて確かに安心だ。

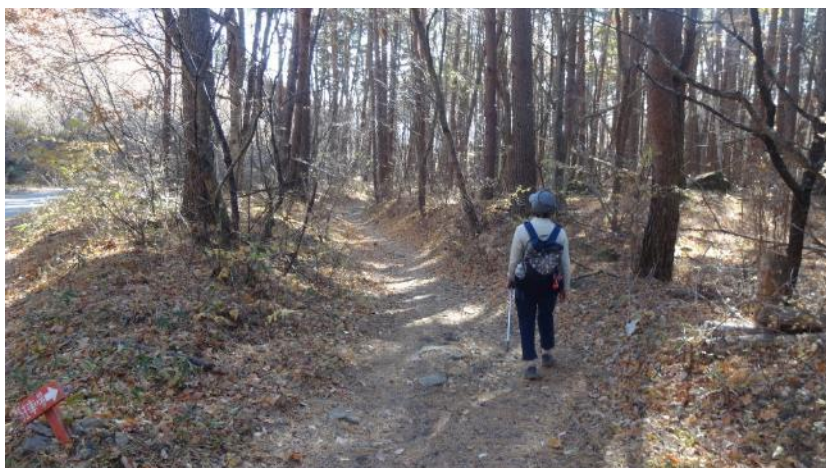
他の登山者とすれ違うこともない。葉の落ちてしまった樹木の間を抜けながら軽快に下った。



1 時間ほど下って、駐車場への矢印が書かれた場所に着いた。



あと 20 分程も歩けば今日の出発地点にもどる。



そこには、出発前には立ち寄らなかった深田記念公園がある。





深田記念公園は狭くひっそりとした公園であつた。



大きな石の碑には、  
「百の頂に 百の喜びあり」  
と刻まれていた。



公園の周囲に僅かに残っていた紅葉をバックに、中島さんは一人ご満悦！

公園散策後にレンタカーで向かったのは、「葦崎 旭の湯」。畑の真ん中からぽつんと現れたような建物が「旭の湯」であつた。富士が大きく見える場所だ。温泉は1200mの深さから湧いてくる。

炭酸泉の気泡が体に付く。飲めば、ビールよりも美味しいという。 ゆっくり小一時間も浸かっていた。





温泉でしっかり温まって、駅前のトヨタレンタカーに車を返した。

帰り列車の発車時刻までにはまだ1時間ほども時間がある。

生ビールでも飲もうと思ったが、駅周辺には飲み屋があまり無い。あっても、開店時刻が17時であった。

やむを得ず駅前のショッピングセンターで缶ビールを買って飲むことにした。



何故かカエルの石像も座っているショッピングセンター入口前のベンチに2人座って、缶ビールで乾杯した。

つまみは持参の乾きもの。

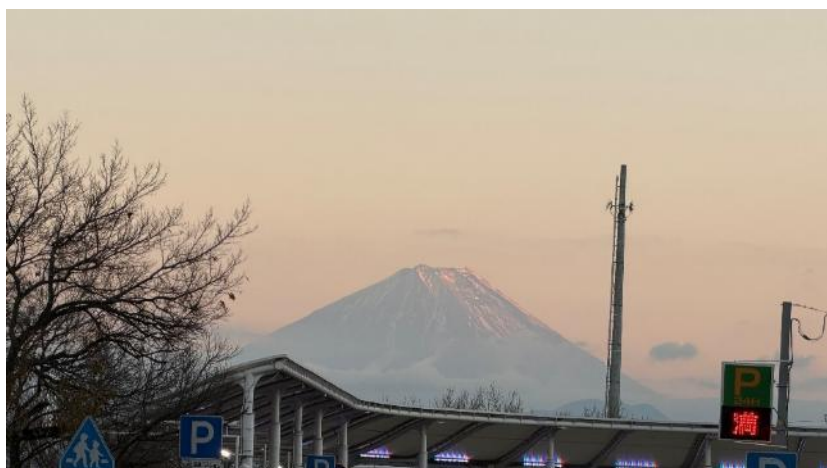
乾いた喉に缶ビールはたちまち空になり、少々物足りない。

再びショッピングセンターに入って、「仲」とか言う地元の純米酒を買い求めてチビチビやることにした。



店前のベンチで飲んでいる我々に気づいていたのか？

気の利く販売員がいて、紙コップを準備してくれた。



夕日で赤く染まっていく富士山を楽しみながら飲む酒も悪くはない。

酒瓶をぶら下げたまま、16時53分発「あずさ44号」に乗り込みました。列車の中でもチビチビやっていたらあっという間に八王子駅に到着しました。

八王子駅からは横浜線を利用して、吉松は町田駅まで、中島さんは東神奈川駅へ向いました。

中島さんと一緒にの登山は8月の月山以来となり、久しぶりに良い汗を流した登山でした。



## 【ついでながら 2】

中島さんは横浜線の端から端まで乗車なので、吉松とは八王子駅で別れて一列車遅らせて座って行くことになった。美味しく飲んだ日本酒と列車のほどよい揺れで、暫くしたら爆睡したらしい。目が覚めた時は東神奈川駅で、起こされなければ八王子駅に向かうところだったらしい。